

女子学生の食品嗜好に影響を与える環境的要因について（第5報）

笹田陽子・重田公子

I 目的

生活環境の違いが食生活に及ぼす影響を探る目的で女子短大生を対象に調査を継続してきた。今回は、果物を通し分析を試みた。

II 方法

都市型T女子短大短大生（以下T）、126名と、地方型M女子短大生（以下M）、115名を対象に、平成5年5月、質問紙自記入留置法にて実施した。

III 結果及び考察

対象者の居住形態は表1のとおりとなり、家族と同居している者はT 80.2%、M 49.6%と、形態には差（ $p < 0.01$ ）が現われた。

一週間のフルーツ喫食回数は表2のとおりとなり、1回未満はTで9.4%、Mで23.5%、とMでは4人に1人は1週間に1度も摂取していないことがわかった。またほとんど毎日摂取している者はT 22.6%、M 15.7%となり、TはMと比較し、有意に（ $p < 0.05$ ）高いことがわかった。

フルーツの摂取種類は（表3）T 22品（含缶詰2種）、M 23品（缶詰5種）とMに缶詰の出

現が高く、その平均は1人当りTで2.52品、Mで3.02品で種類は東北に多い（ $p < 0.01$ ）ことがわかった。また、出現頻度の上位6位までのフルーツは、いちご、バナナ、グレープフルーツ、りんご、オレンジ、キウイフルーツ（ $r = 0.771$ ）で対象者間には相関が認められた。また、Tにはマンゴー、パパイヤ、ライチーなど熱帯地方のフルーツが、Mには缶詰が多く出現

表3 フルーツ別摂取頻度

フルーツ名	T		M	
	人	%	人	%
いちご	40	31.7	57	50.0
バナナ	38	30.2	61	53.0
グレープフルーツ	35	27.8	50	43.4
りんご	31	24.6	20	17.4
オレンジ	26	20.6	29	25.2
キウイフルーツ	21	16.7	25	21.7
メロン	16	12.7	11	9.6
甘夏みかん	13	10.3	8	7.0
はっさく	9	7.1	10	8.7
西瓜	7	5.6	6	5.2
パイナップル	6	4.8	4	3.5
みかん	4	3.2	—	—
マンゴー	4	3.2	—	—
いよかん	4	3.2	8	7.0
レモン	3	2.4	7	6.1
ぶどう	2	1.6	4	3.5
ネーブル	2	1.6	—	—
桃	1	0.8	—	—
パパイヤ	1	0.8	—	—
ライチー	1	0.8	—	—
なし	—	—	1	0.9
さくらんぼ	—	—	2	1.7
みかん缶	2	1.6	4	3.5
桃缶	1	0.8	12	10.4
洋なし缶	—	—	1	0.9
パイナップ缶	—	—	7	6.1
チェリー缶	—	—	2	1.7

表1 居住状況 (%)

	家族同居	一人暮らし	寮	その他
T	80.2	8.5	8.5	2.8
M	49.6	34.8	11.3	4.3

表2 フルーツ摂取回数 (%)

	1回未満	1~2回	3~4回	ほとんど毎日
T	9.4	37.7	30.2	22.6
M	23.5	37.4	23.5	15.7

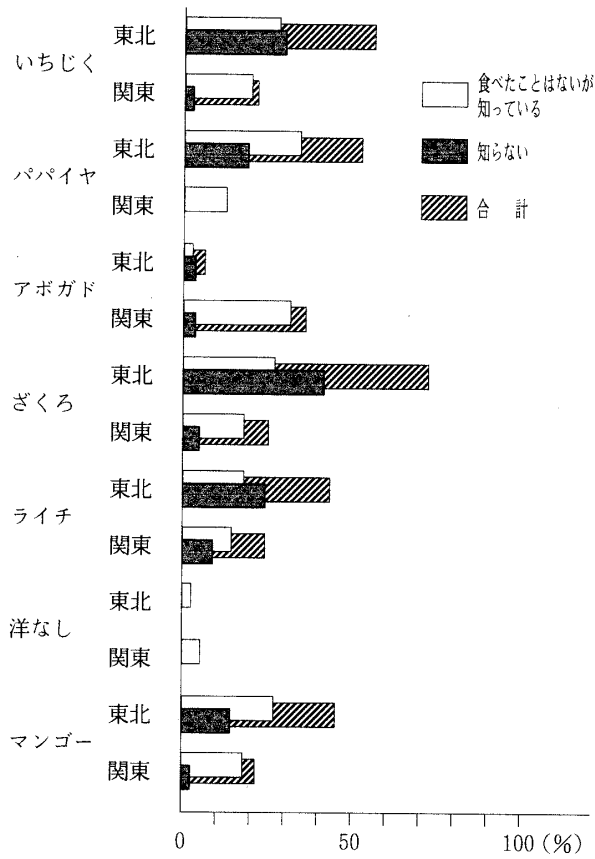


図1 喫食経験と認識度

した。

イメージ調査及び喫食経験等について、摂取種類を基に20品目を設定した。

喫食経験と認識調査の結果は図1のとおりとなり、いちじく、パパイヤ、ざくろ、ライチ、マンゴーを「知らない」、「食べたことはないが知っている」とする割合は東北では高く、アボガドはTで「食べたことはないが知っている」がMを大きく上回った。また洋なしを「知らない」と答えている者はいずれも現われなかったが、Tでは「食べたことはないが知っている」がMを上回った。

イメージ調査は表4-1～20のとおりで、イメージ語13、測定尺度、1・そう思う～5・思わないの5段階を用いた。

好きなフルーツはいずれも同じで、梨 (T: 1.5, M: 1.6), 桃 (T: 1.5, M: 1.7), いちご (T: 1.6, M: 1.7), グレープフルーツ (T: 1.7, M: 1.8), みかん (T: 1.8, M: 1.8), さくらんぼ (T: 1.9, M: 1.8), 西瓜 (T: 2.0, M: 1.8), メロン (T: 1.9, M: 1.9) の順で、

表4-1 柿

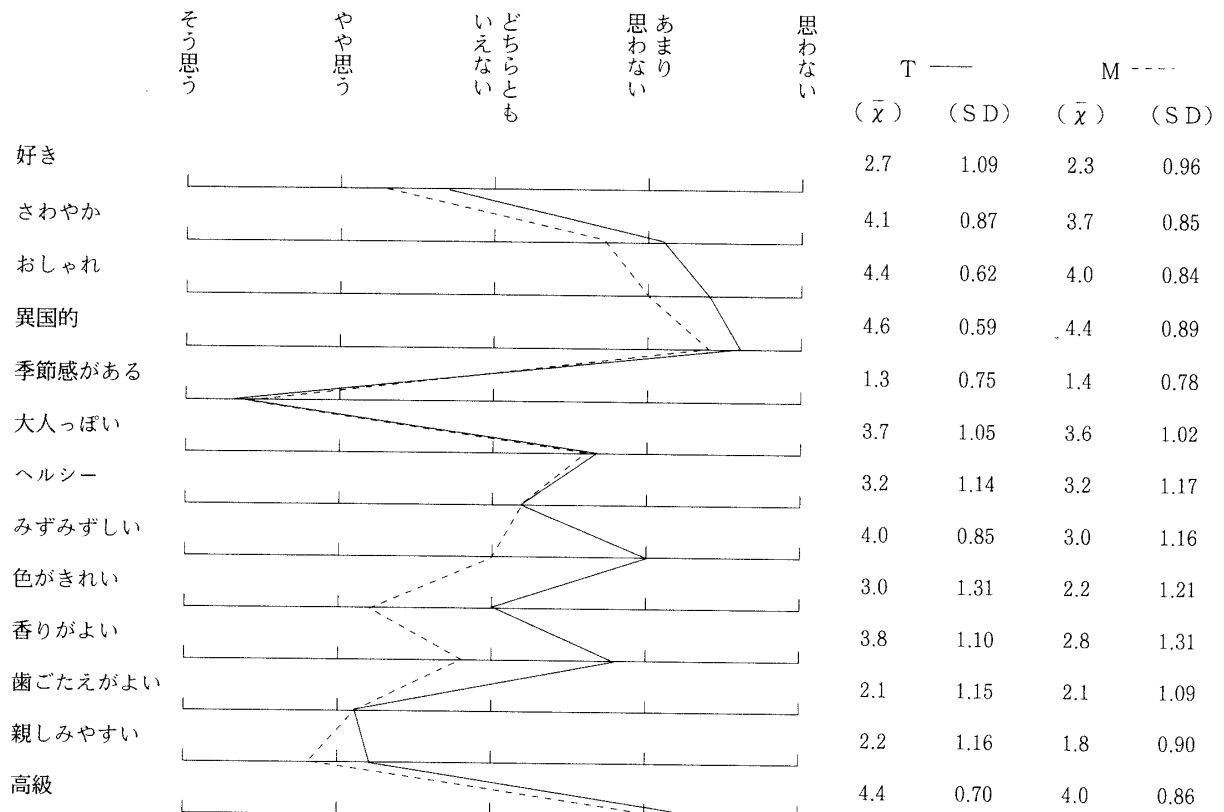


表4-2 パイナップル

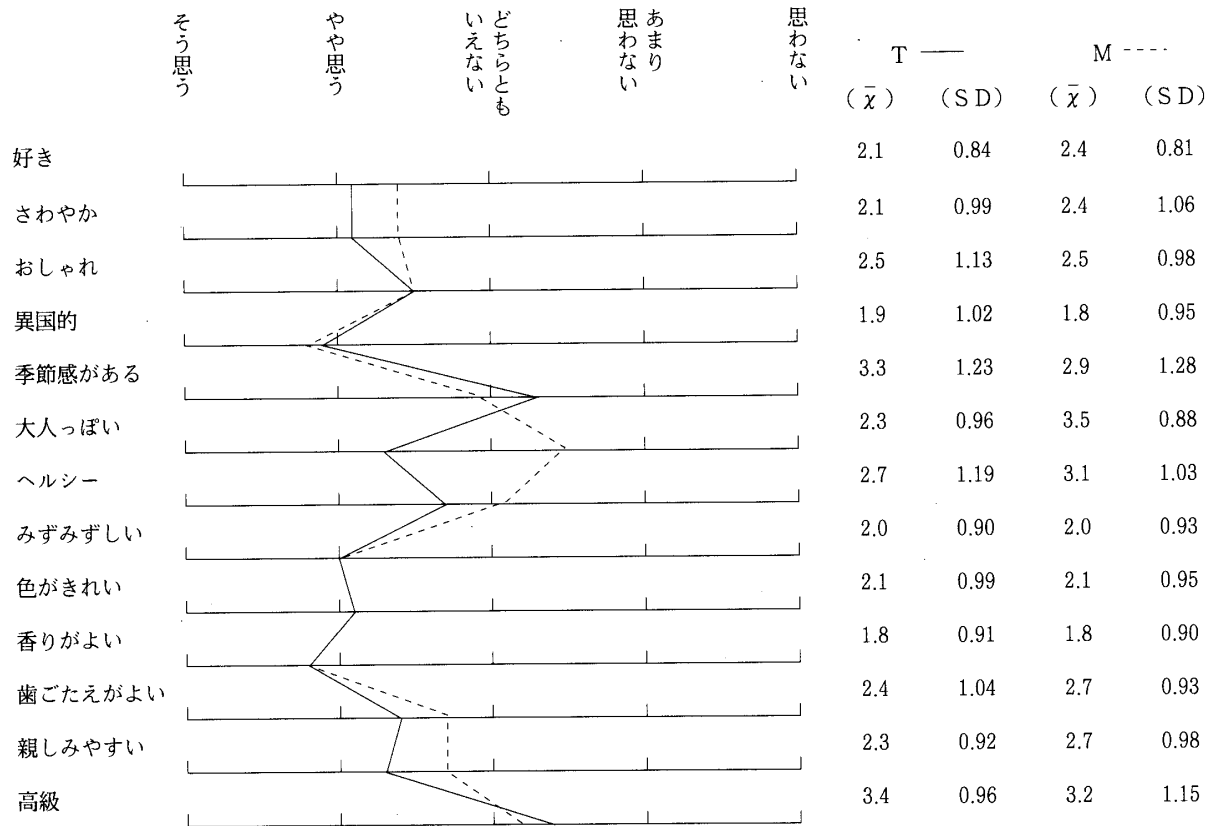


表4-3 桃

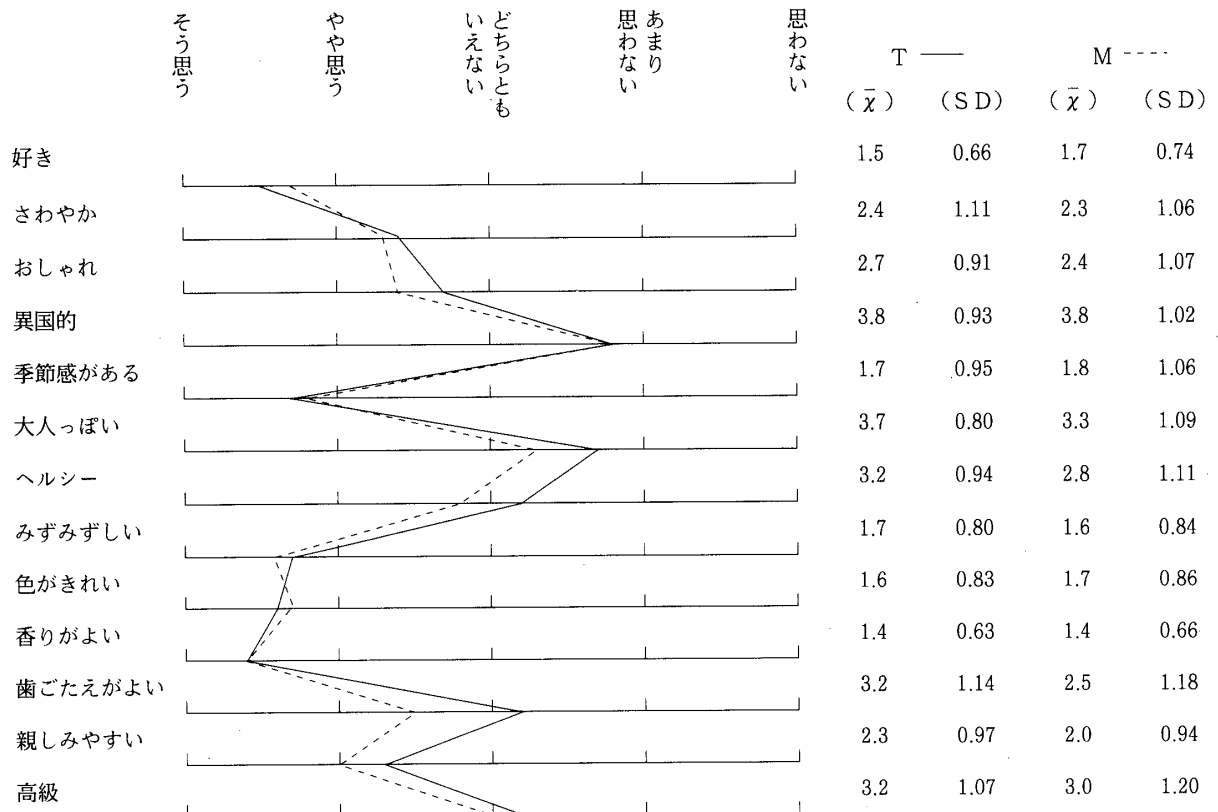


表4-4 すいか

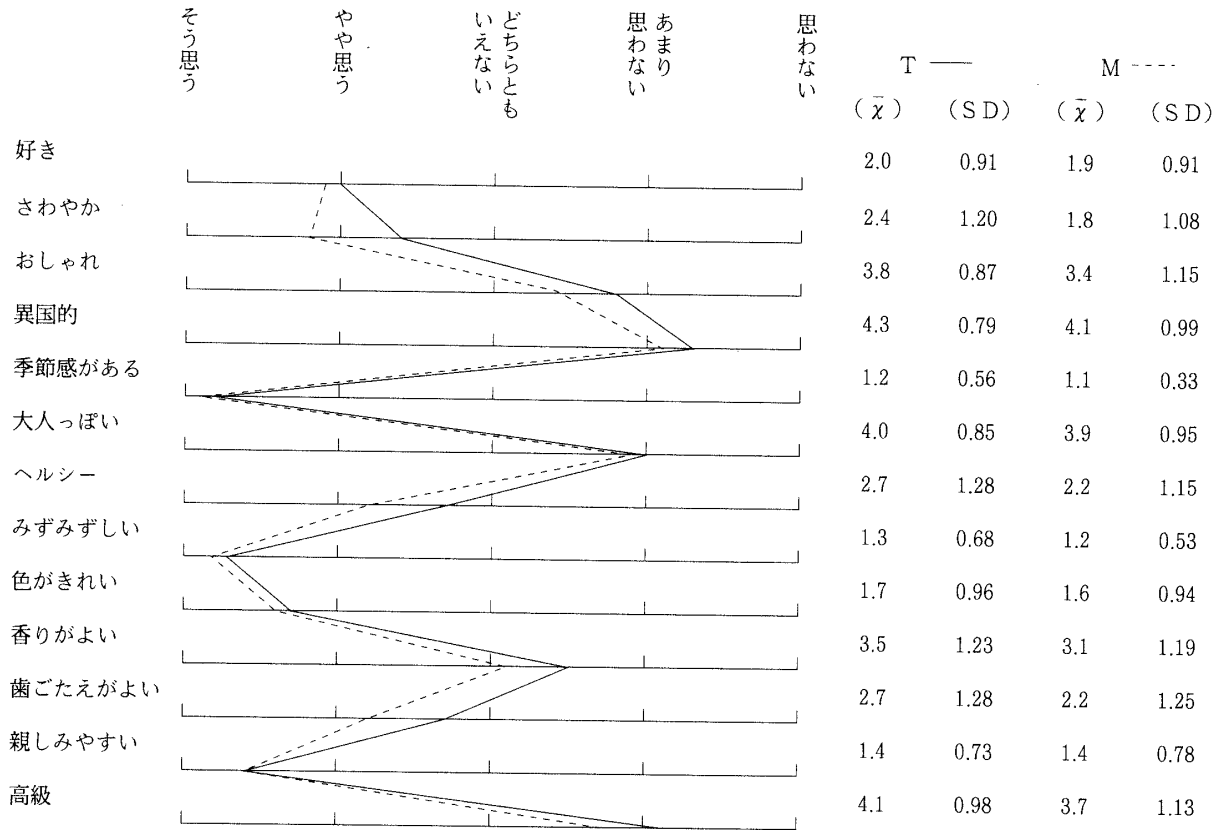


表4-5 バナナ

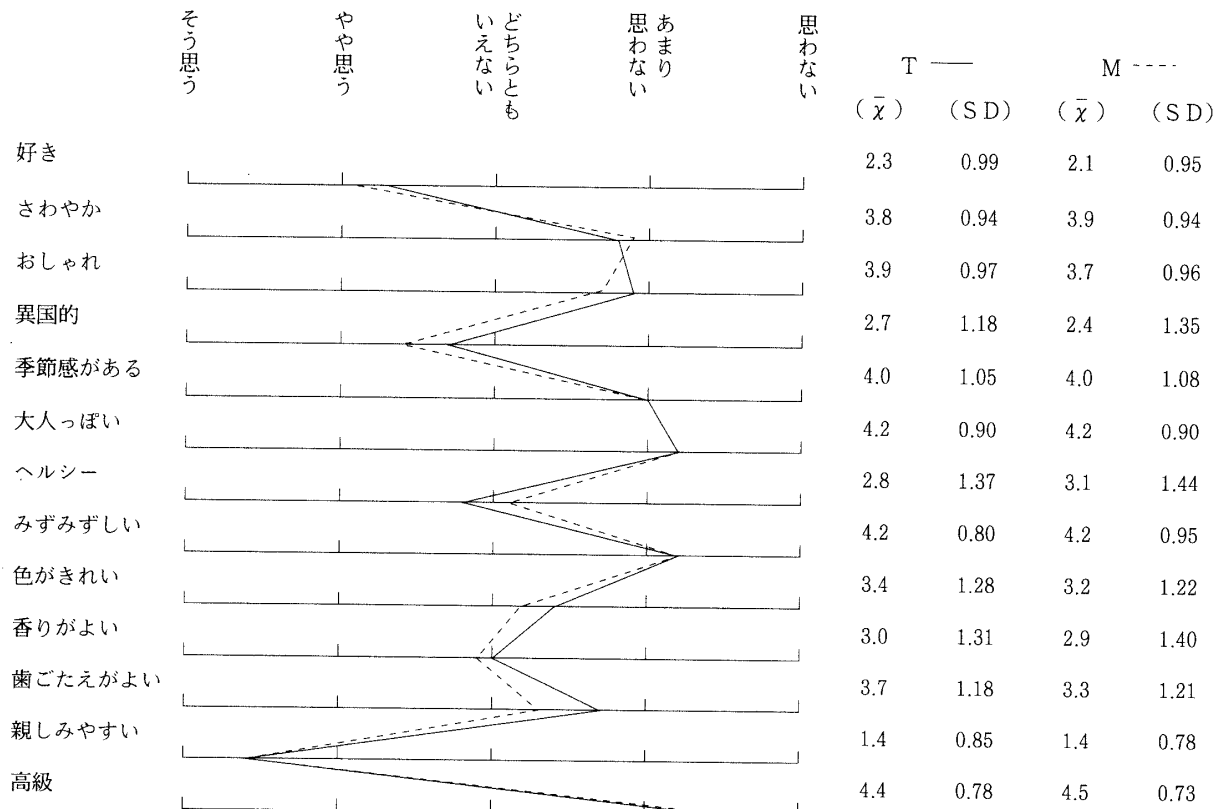


表4-6 キウイフルーツ

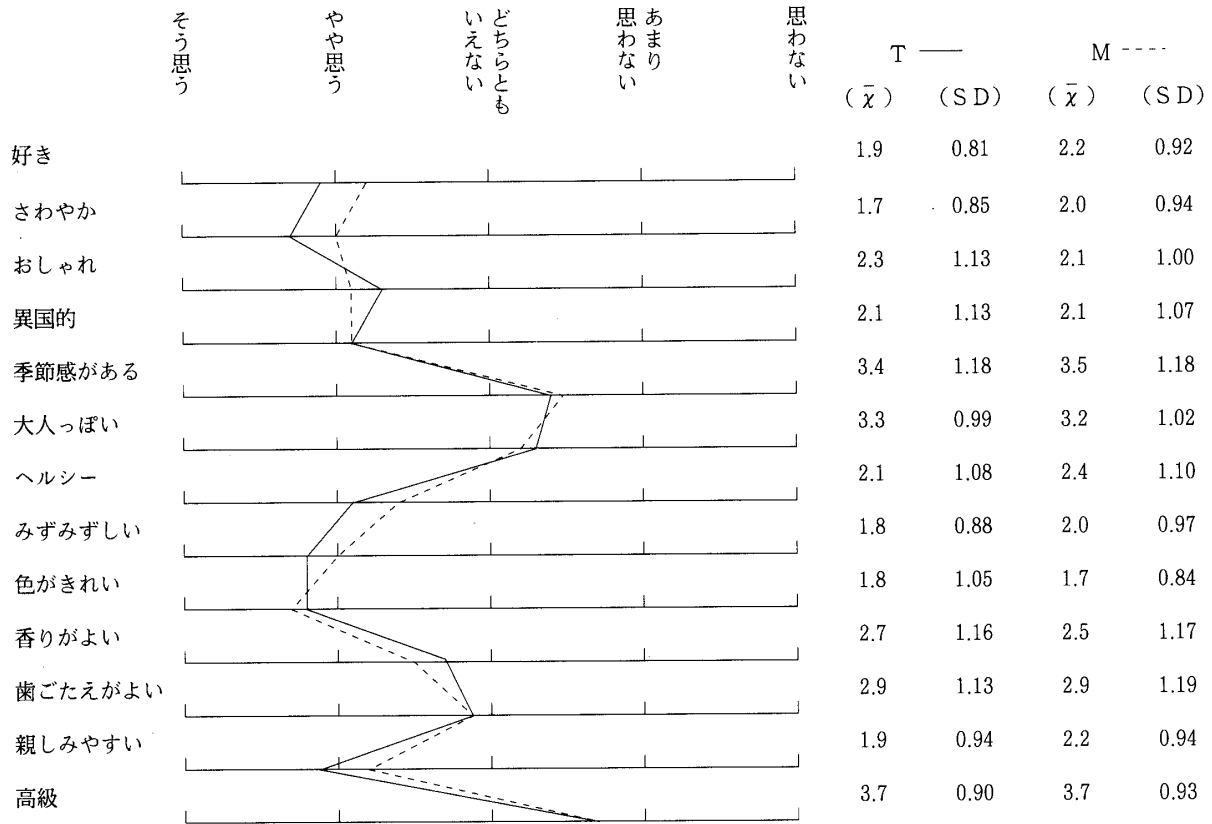


表4-7 メロン

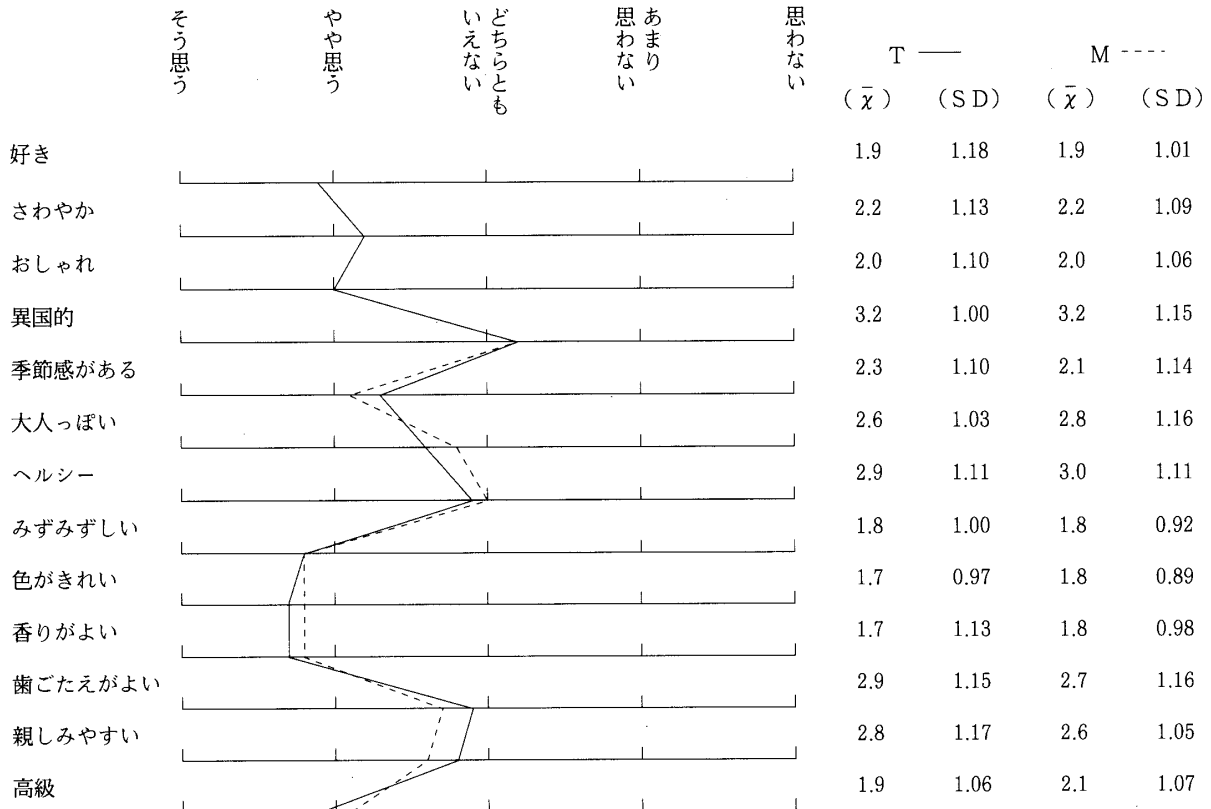


表4-8 いちご

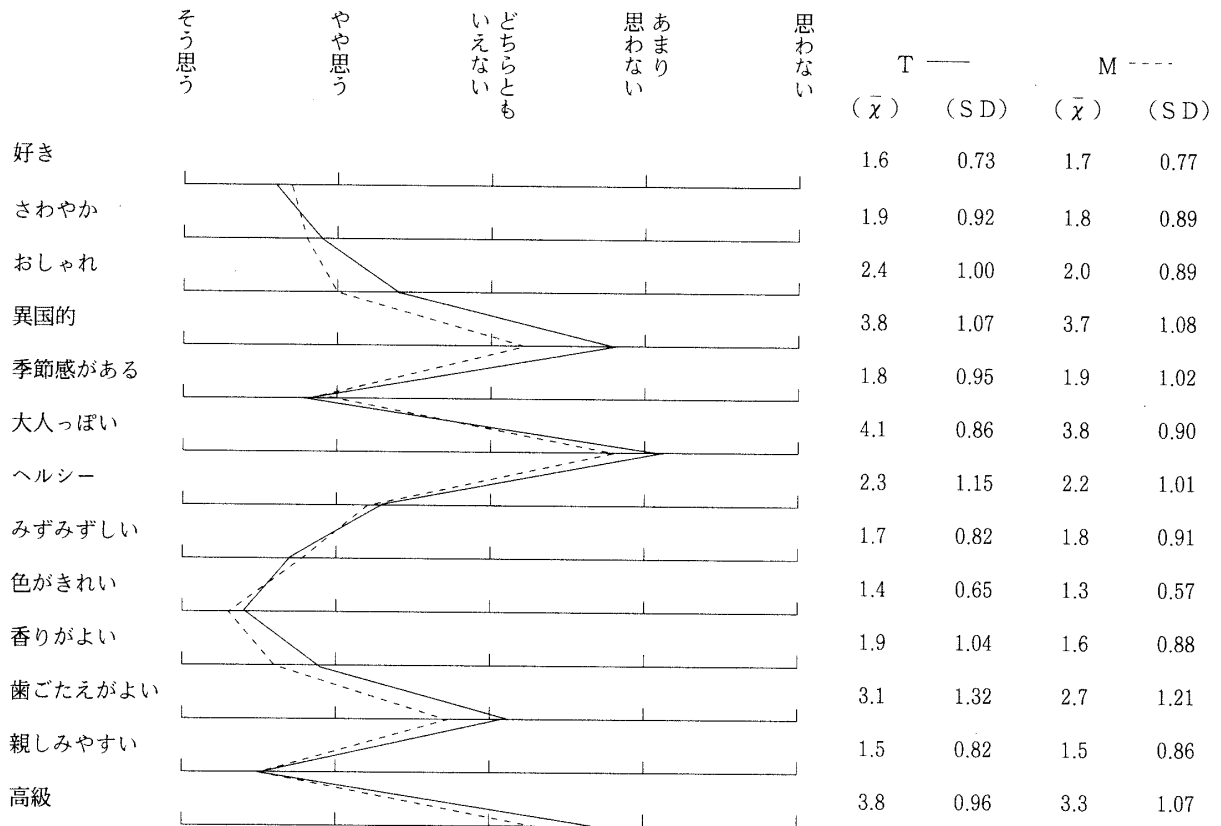


表4-9 洋なし

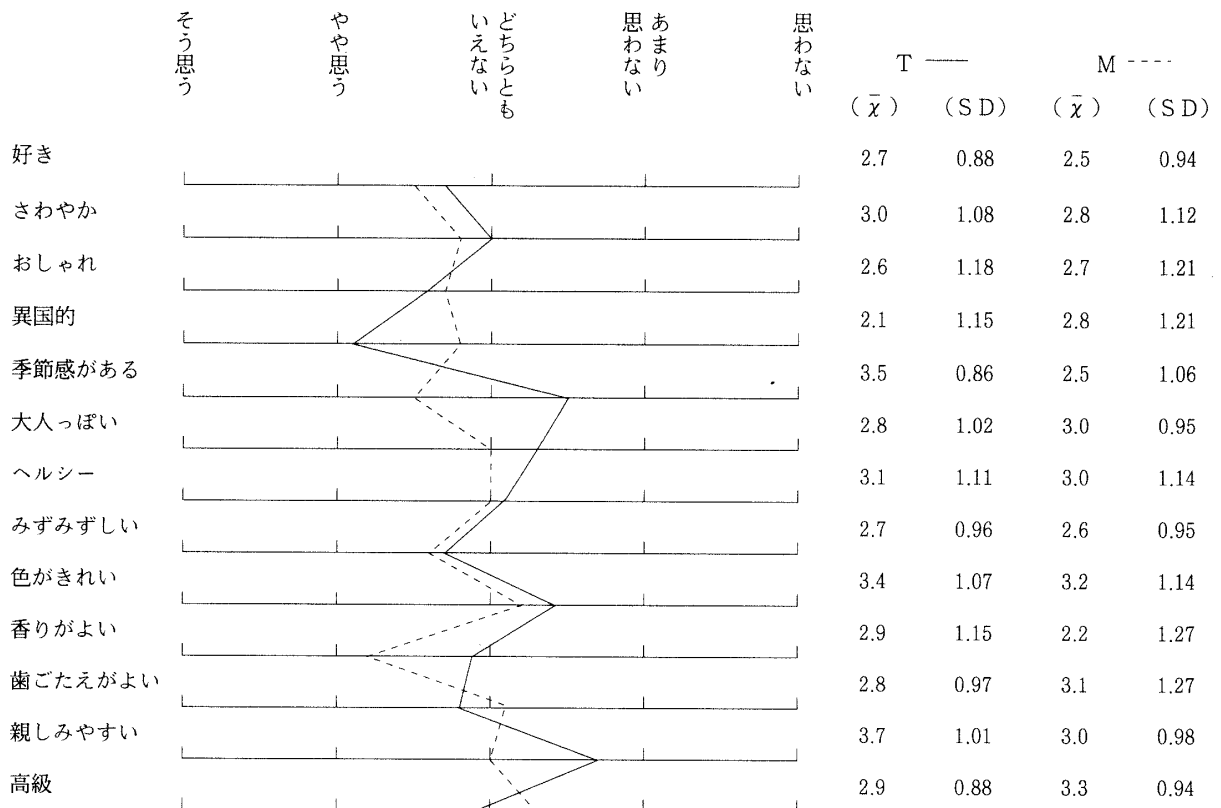


表4-10 パパイヤ

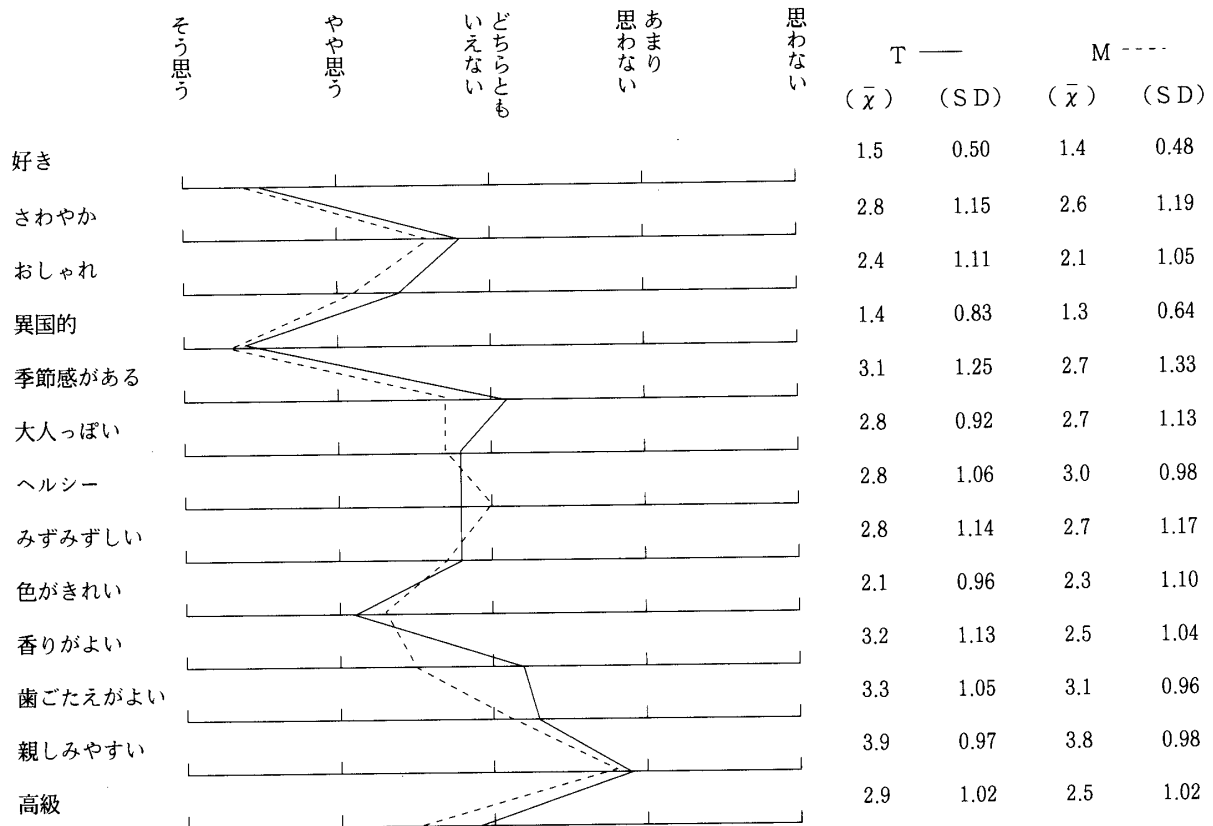


表4-11 さくらんぼ

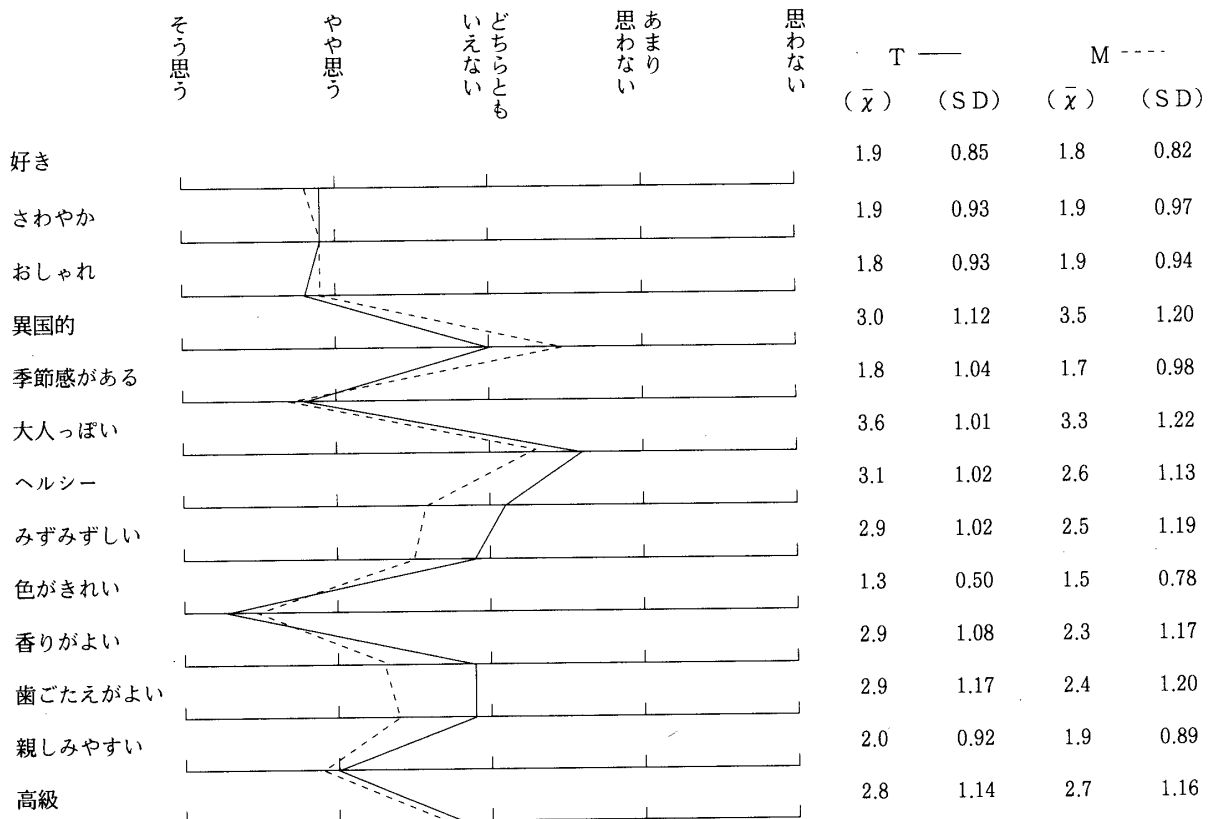


表4-12 マンゴー

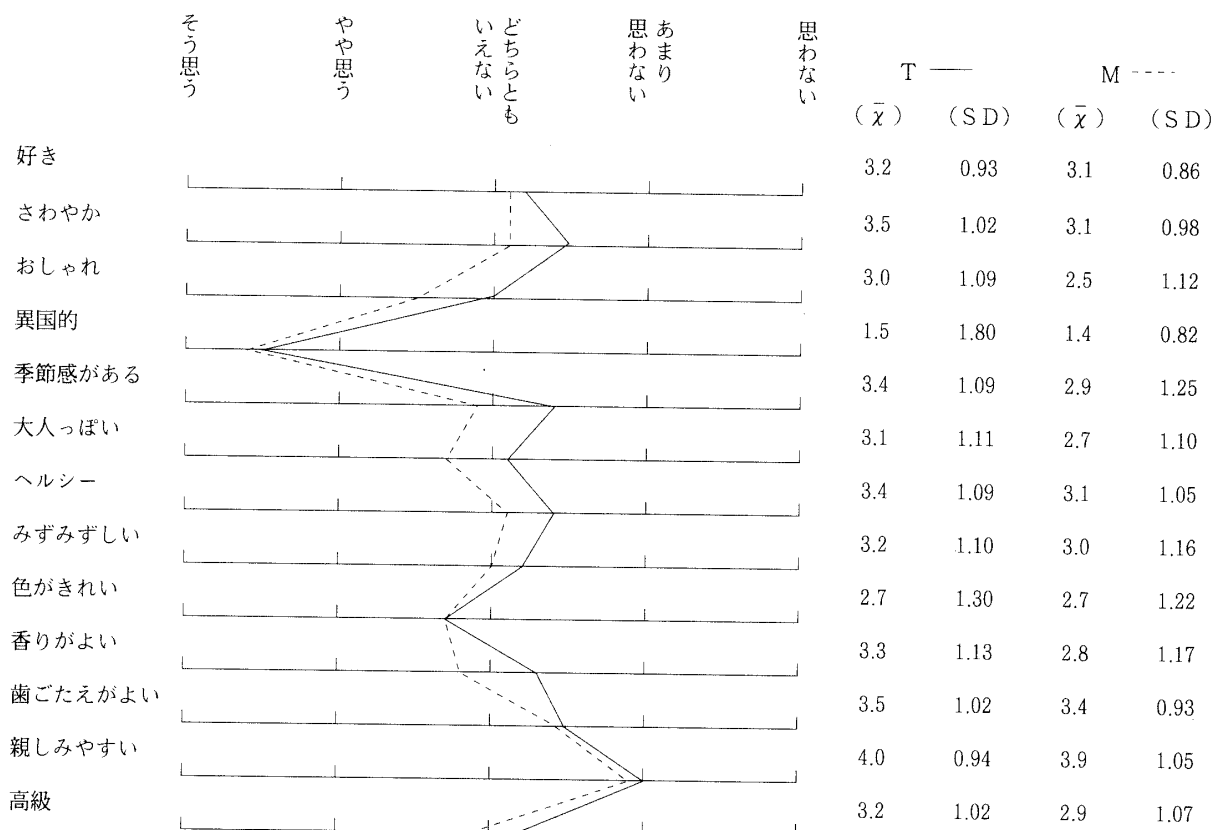


表4-13 みかん

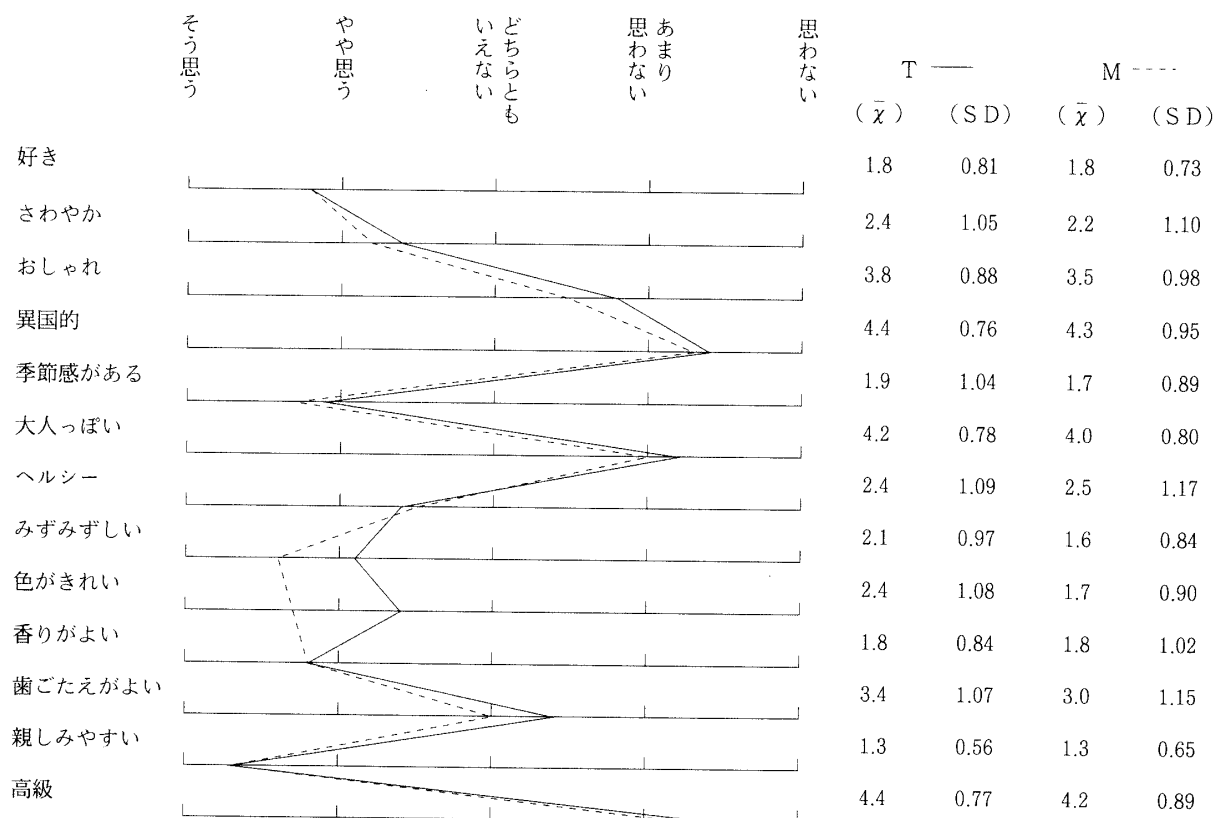


表4-14 いちじく

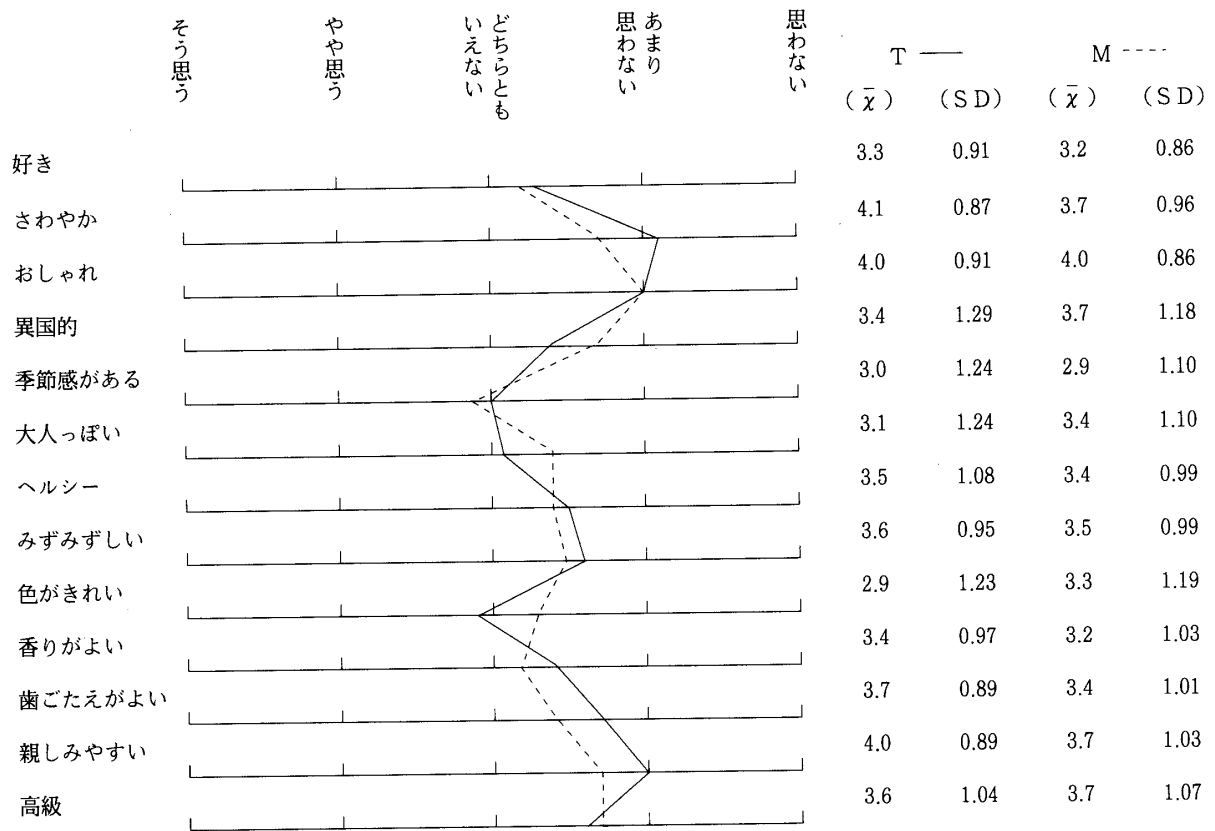


表4-15 りんご

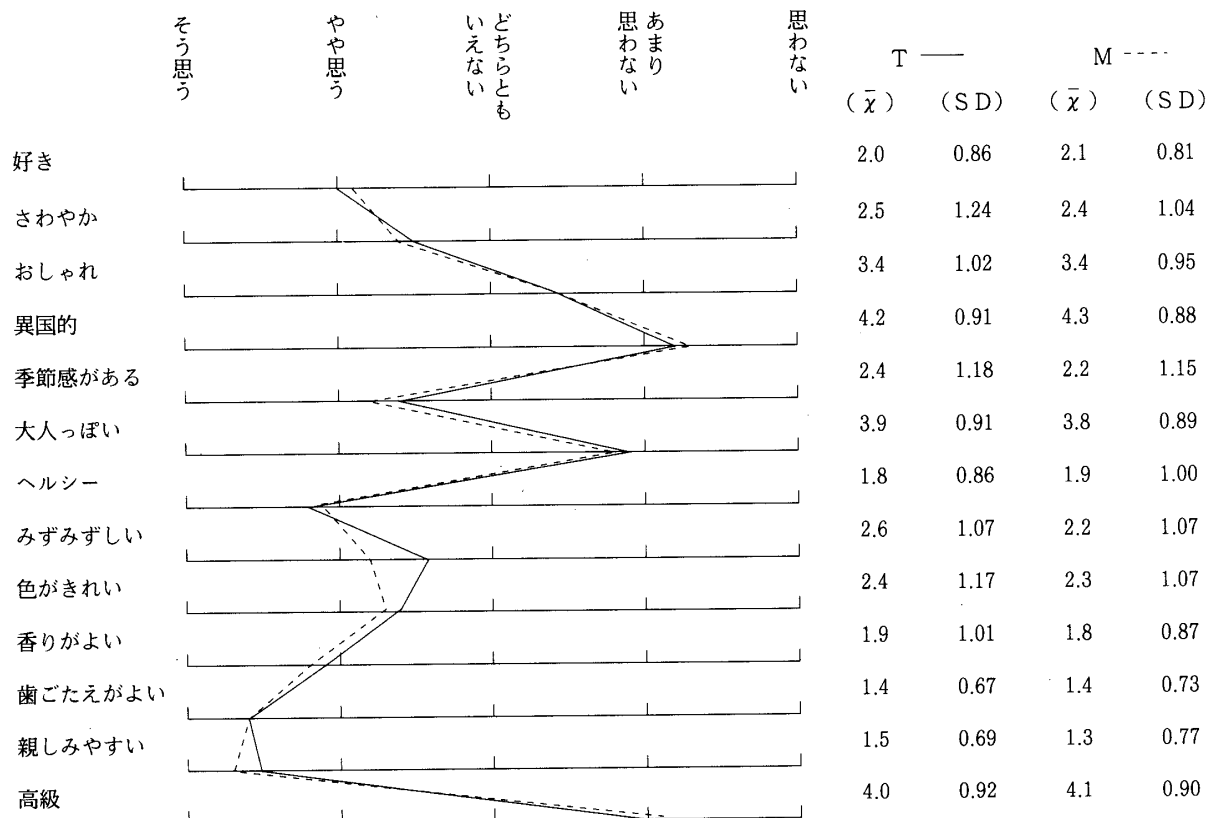


表4-16 アボガド

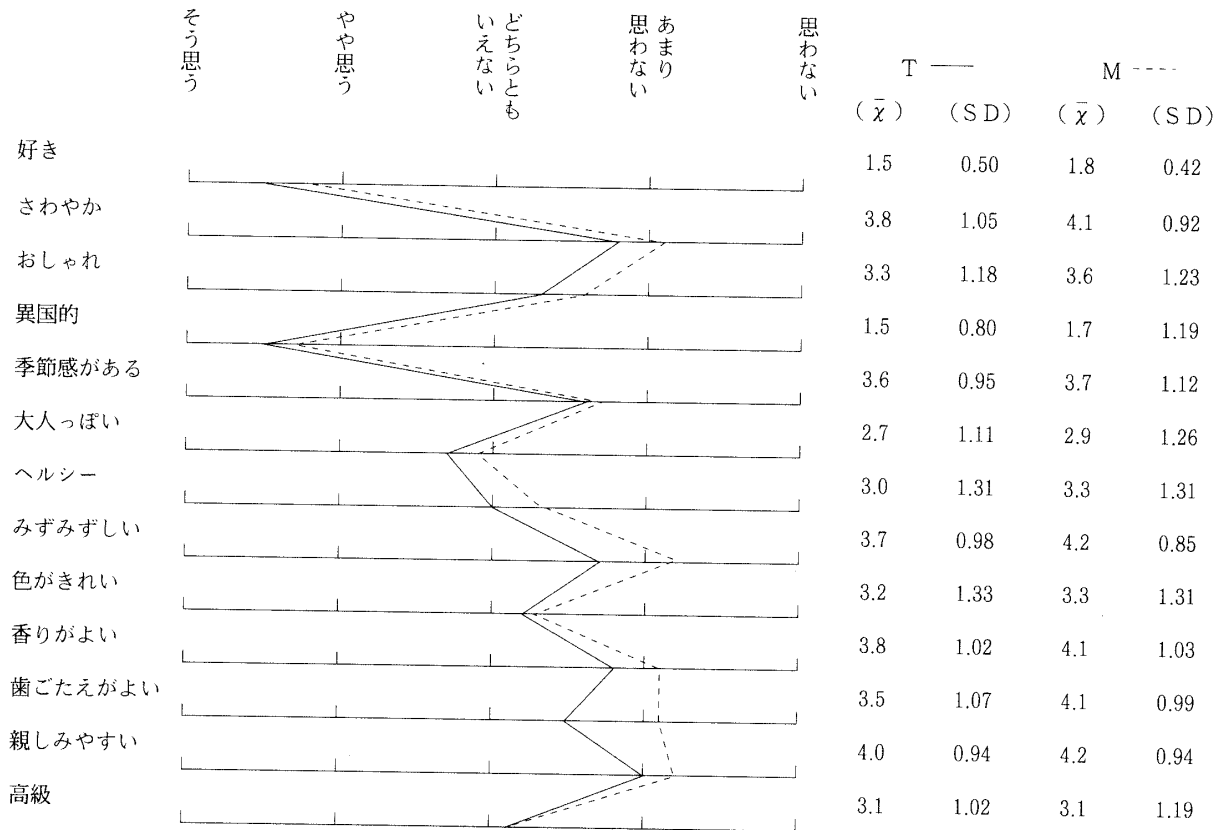


表4-17 梨

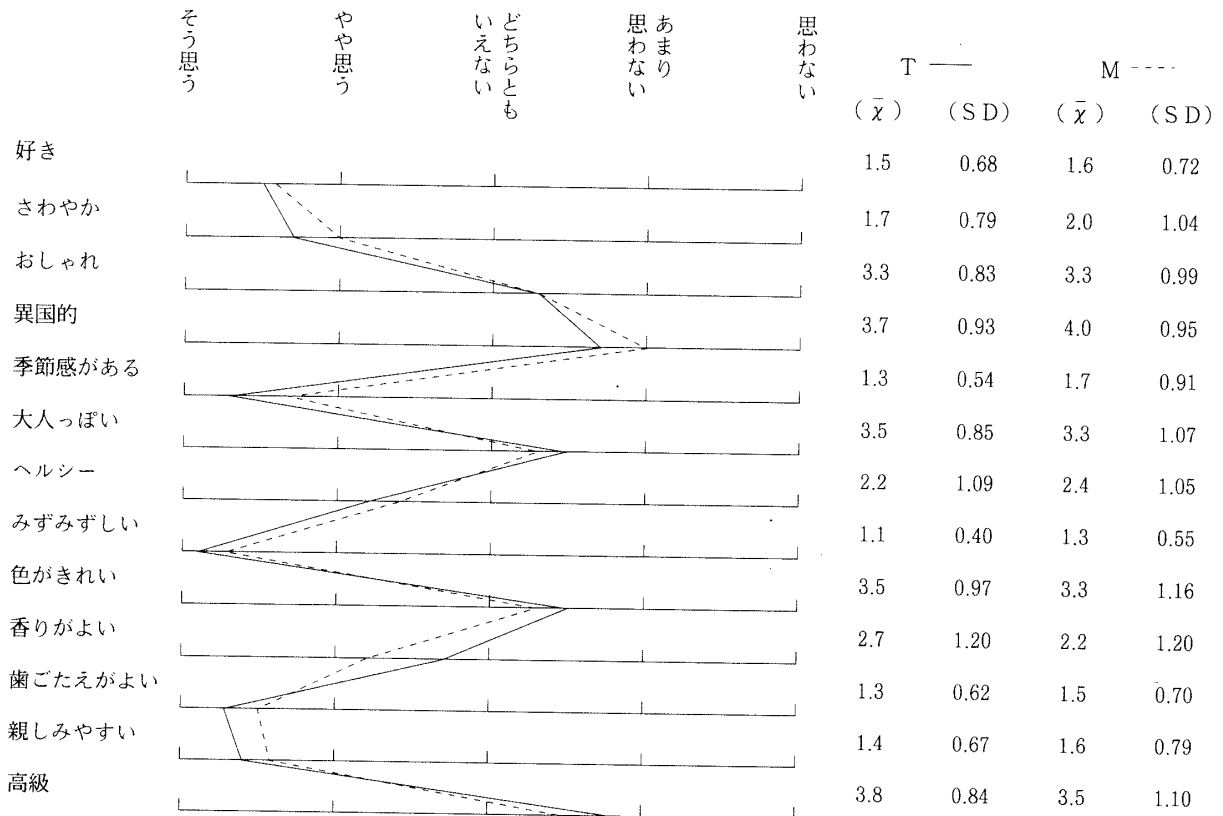


表4-18 グレープフルーツ

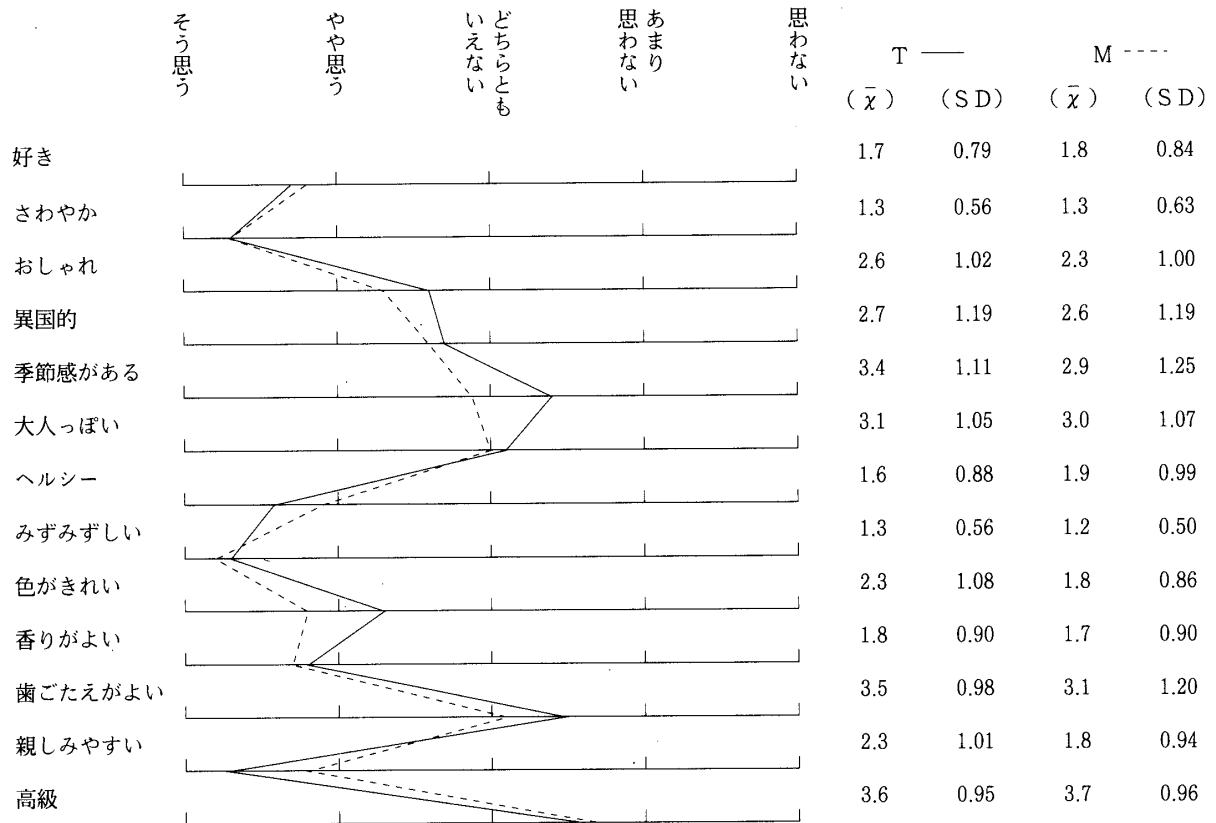


表4-19 ライチ

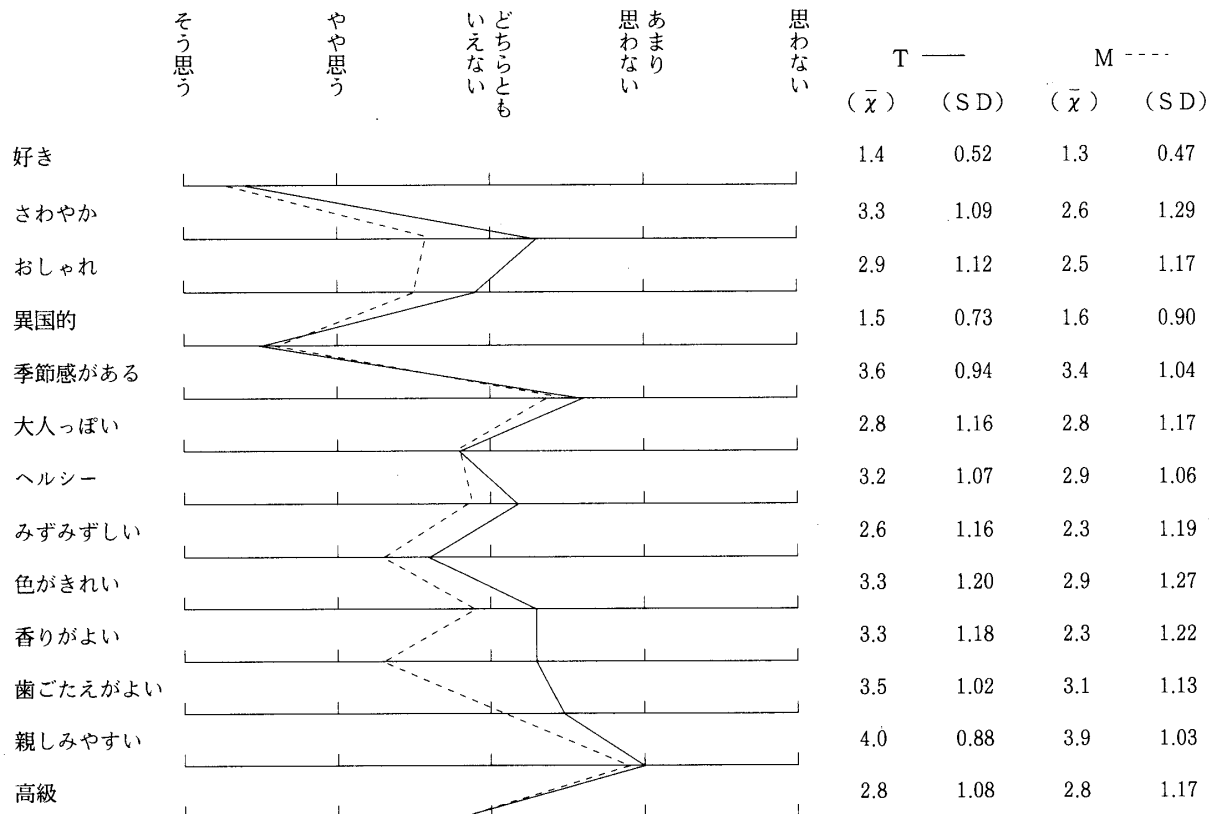
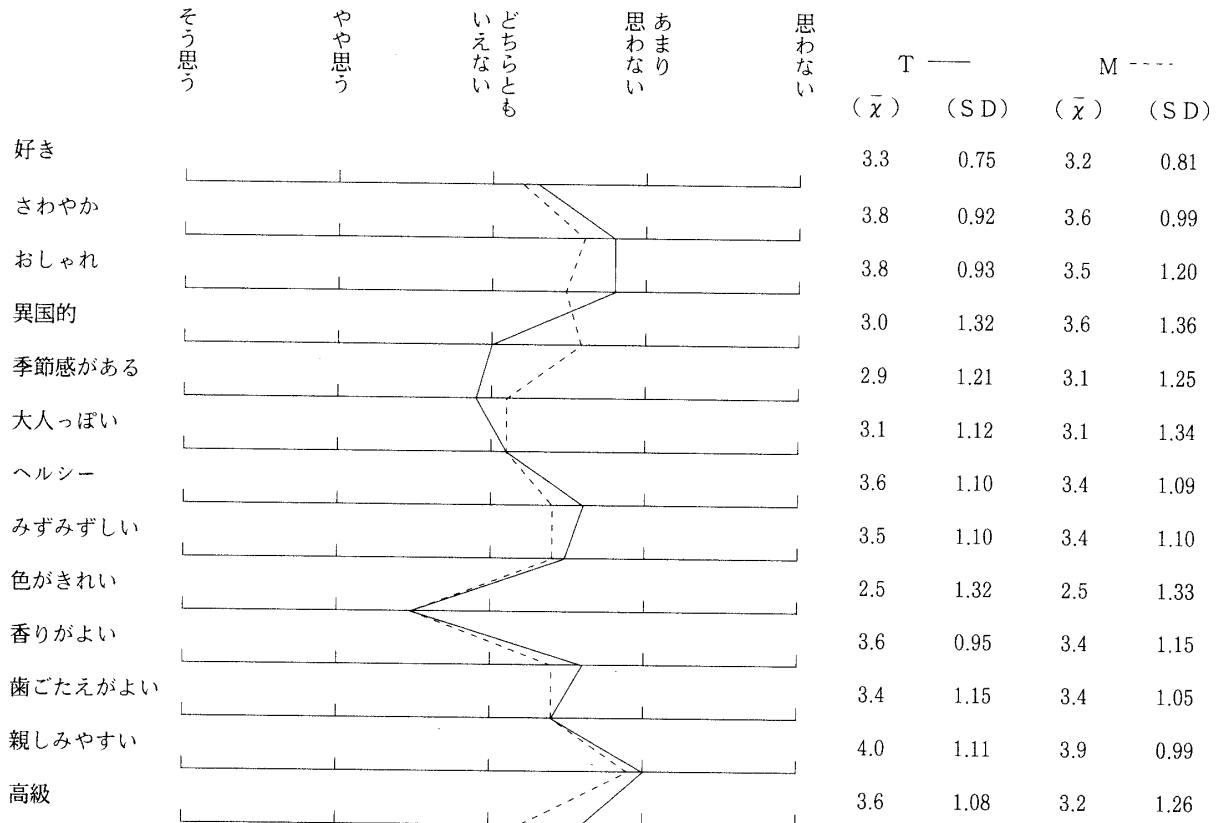


表4-20 ざくろ



食べたいフルーツと強い相関 ($r = 0.999, p = 0.01$) を示した。また、あまり好まれていないフルーツも、両者共、同じフルーツが出現し、アボガド (T: 3.5, M: 3.9), いちじく (T: 3.3, M: 3.2), ざくろ (T: 3.3, M: 3.2), マンゴー (T: 3.2, M: 3.1) であった。

フルーツそれぞれの持つイメージ語 ($\bar{X} < 1.9$) は、梨: みずみずしい, 歯ごたえ, 季節感がある。桃, メロン: 香りがよい, 色がきれい, みずみずしい。いちご: 色がきれい, 親しみやすい, 香りがよい。グループフルーツ: みずみずしい, ヘルシー, 香りがよい。みかん: 親しみやすい, 季節感がある。さくらんぼ: 色がきれい, 季節感がある。西瓜: 季節感がある, みずみずしい, 親しみやすい。りんご: 歯ごたえがある, 親しみやすい。キウイフルーツ: 色がきれい, さわやか。バナナ: 親しみやすい。パイナップル: 香りがよい, 異国的。柿: 季節感がある。ライチ, パパイヤ, マンゴー, アボガド: 異国的, であった。これらより, 出回り量の多いバナナ, みかん, りんご, いちごに親

表5 順位相関

フルーツ名	r
西瓜	0.986
バナナ	0.979
いちご	0.951
りんご	0.951
パイナップル	0.951
メロン	0.944
みかん	0.944
柿	0.937
梨	0.937
グレープフルーツ	0.937
アボガド	0.923
キウイフルーツ	0.923
マンゴー	0.923
さくらんぼ	0.881
桃	0.853
ライチ	0.825
いちじく	0.696
パパイヤ	0.685
洋なし	0.259
ざくろ	-0.238

表6 有意差ありのイメージ語

フルーツ名	個数
柿	8
さくらんぼ	7
梨	6
マンゴー	6
西瓜	6
みかん	6
桃	5
ライチ	5
洋なし	5
グレープフルーツ	5
いちご	5
パイナップル	5
いちじく	4
アボガド	4
キウイフルーツ	4
パパイヤ	3
バナナ	2
ざくろ	2
りんご	1
メロン	0

しみを感じ、なし、みかん、さくらんぼ、西瓜、柿に季節を感じる事がわかった。また、洋なしのイメージは“どちらとも言えない”に近く、ざくろ、いちじくには、親しみ、おしゃれを感じないことがわかった。

TとMのフルーツイメージの相関は表5のとおりとなり、洋なし、ざくろを除き、他の18のフルーツには、相関が認められた。

また、有意差の認められたイメージ語の個数は表6のとおりである。柿に違いが最も多く13語中8語、次いでさくらんぼ、梨、マンゴー、西瓜、みかんの順であった。

これらより

1. Mは1人あたりの摂取種類はTと差はないが、その内容は異国的とイメージされるフルーツは少なく、また摂取回数もTと比較し少なかった。

2. 両者共に好きなフルーツは食べたいフルーツであった。
3. MはTと比較し、知らないフルーツの多いことがわかった。
4. 好きなフルーツは両者共同じ種類であった。
5. 好まれていないフルーツも好きなフルーツ同様、同じ種類であった。
6. ざくろとさくらんぼのイメージに両者の違いが高く現われた。

以上、フルーツの摂取状況及びイメージに大きな違いは認められなかったが、最近出回り始めた熱帯フルーツの認識度の違い、洋なしのイメージの違いは、全国的に大量に出回る、りんご、みかん、バナナ等と違い、流通、地域性等により、その嗜好は影響を受けるものと考えられる。

IV 参考文献

- 1) 笹田陽子, 重田公子: 「女子学生の食行動に影響を与える環境的要因について (第1報)」『生活学園短期大学紀要』第12号, 63~73, 1989
- 2) 笹田陽子, 重田公子: 「女子学生の食品嗜好に影響を与える環境的要因について」『生活学園短期大学紀要』第13号, 1~4, 1990
- 3) 笹田陽子, 重田公子: 「女子学生の食品嗜好に影響を与える環境的要因について (第2報)」『盛岡大学短期大学部紀要』第1巻, 79~87, 1991
- 4) 笹田陽子, 重田公子: 「女子学生の食品嗜好に影響を与える環境的要因について (第3報)」『盛岡大学短期大学部紀要』第2巻, 15~22, 1992
- 5) 笹田陽子, 重田公子: 「女子学生の食品嗜好に影響を与える環境的要因について (第4報)」『盛岡大学短期大学部紀要』第3巻, 117~121, 1993
- 6) 山口和子他: 栄養学雑誌, Vol, No 3, 117~132
- 7) 辻新六, 有馬昌宏: アンケート調査の方法, 朝倉書店, 1988